



環境支援士

発行日 平成 29 年 3 月 25 日

発行責任者

滋賀大学「環境学習支援士」会

第 18 号

理事長

橋田卓也

URL : <http://shienshi.com/> Email : shienshikai@yahoo.co.jp

編集責任者 佐瀬章男

結成 10 年記念号

第8回滋賀大学「環境学習支援士」会シンポジウム

テーマ「私たちと森林の関わりあい」～大津の森を守る～

理事長 橋田卓也

平成 28 年 11 月 27 日(日) 滋賀大学大津サテライトプラザで滋賀大学社会連携研究センターと共催して第 8 回滋賀大学環境シンポジウムを開催しました。参加者は 72 名で森林の課題について、講師と参加者の交流を拡げ成功裡に終わりました。

今回のテーマは昨年のシンポジウムの参加者アンケート結果や平成 27 年度県政世論調査による「琵琶湖森づくり県民税」の認知度が低く「私たちの日常生活と森林の結びつきが極めて低いことがわかりました」これらの問題に焦点を当て、今回のシンポジウムのテーマ「私たちと森林の関わりあい」～大津の森を守る～としました。

演題名とそれぞれの講演者は以下の通りです。

基調講演「森の文明論 - 森の意義・重要性を文明論から考えてみよう」

立命館大学教授 環太平洋文明研究センター長・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田善憲氏

話題提供「滋賀県の森林の現状と今後の森林管理について」県琵琶湖環境部森林政策課副参事 長崎泰則氏

話題提供「南部森林組合の仕事と市民の協力について」滋賀南部森林組合理事 玉木圭介氏

安田先生は、環境考古学による文明論の立場から 古代四大文明の食料は麦と家畜であったが、家畜のヤギとヒツジは森を破壊し砂漠化した。近年、中国の長江を中心とした稲作漁労の「命を守る森と水を守る」古代文明が存在したことが明らかになった。日本は先進国の中で、稲作漁労の生活文化を続け森を守ってきた。今後 10 年後には稲作漁労と森を残してきた日本の文明が見直されるだろうと提起された。

長崎先生は、行政の立場から 滋賀県の森林は、人工林 43.5%天然林 53%でこの比率は全国平均で、森林の多面的価値と経済的価値は 6,716 億円で日本全体の 1/100 となっている。林業の概算収入は 1ha 当たり 50 万 / 50 年 = 1 万円 / 年で経済的には成り立たない。今後の森林管理は、森林認証制度に基づく持続可能な森林作りが求められているが、獣害(シカ)・機械化・経済性から容易ではない。未来に向けて森林税から「やまのこ」の教育活動に力を入れている。

玉木先生は、森林組合の立場から 南部森林組合の仕事は、私有林所有者の代表による協同組合組織である。仕事からみて大津の森は素晴らしいとは言えないが、経済林と環境林に分けての経営が必要となっている。市民の皆さんが、森林税・獣害・機械化・森林所有の境界等改善への取組に協力してほしい。

市民の皆さんが、森林が遠いところにあるものでなく行きつけの山(森)を持って欲しい。

3名の先生方に、多くの質問が出され、活発な質疑応答が行われました。厳しい森林の現況への理解が深まったことが出発点で、私たちの日常生活から森林との結びつきを強めていくことが求められています。



沖島自然観察会

2016年10月8日(土)



9時30分堀切新港着、4人は先着し合計14人の参加者全員集合。天気：曇り時々晴れ、橋田理事長の開会挨拶後9時40分周遊船「モンテクルーズ」に乗船、沖島周遊。ガイド小川さんの説明を聞きながら島を1周。10時40分沖島港着。その後山組と街組の2班に分かれる。

ケンケン山登山組 小島、橋田、佐瀬、橋詰、寺崎、稲田、吉川、三好の8名
お花見広場、ホオジロ広場、沖島小学校経由 12時5分沖島港に帰る。

昼食休憩(港で三々五々)12時45分集合西福寺に向かう 13時~住職の西居さんに西福寺の歴史を縁起絵巻で説明を受ける。寺宝蓮如上人「虎斑の名号」と親鸞の「正新偈」の説明と見学。13時35分終了
実習生の小島先生(沖島小学校)の案内で沖島の自然と歴史を学習した有意義な1日でした。 佐瀬章男

ウォーキングから自然保護・保全へ(レイカディア大学出前講座)

橋田卓也

レイカディア大学「びわ湖環境学科39期生23名」平成28年10月19日10:00~15:00

当日は、10時から12時を滋賀大学「環境学習支援士」会 橋田、実習生三好さんが出前講座を担当。出前講座の1つはウォーキングにはどんな効果があるのか実証実験を紹介し「心と体をリフレッシュして健康を保つ運動で、森の中ならもっと快適で免疫力を高める働きをする」と概説しました。

2つは自然観察会ウォーキングのコンセプト「自然体験から自然環境保護・保全へ発展させる」取組として私たちの会の事例を紹介し、県内の自然体験施設の実態と課題についても聞き取り調査から明らかにしました。

3つは森林の多面的機能の3つの側面から WSによる温暖化防止の樹木の役割を観察の森の樹木から断面積を求めて1年間当たりの二酸化炭素の吸収量を算出しました。 滋賀県の森林の状況、ほったらかしの森林、シカの食害の実態を明らかにして、生物多様性保全危機について学習しました。 森林での土砂の流失実験を実施して土砂災害防止機能の重要性をみんなで確認しました。39期生の皆さんは熱心に講座を学ばれ、WSや土砂流失実験には関心が集まりました。



びわ湖環境ビジネスメッセ

前田雅彦

第19回びわ湖環境ビジネスメッセは10月19日~21日長浜バイオ大学ドームで開催されました。

滋賀大学は初回より参加しており、2013年度以降は滋賀大学全学あげでの行事と位置付けられ、支援士会も環境に関するクイズを実施することで協力してきました。2016年は「滋賀大学が進める環境にやさしい農と食による地方創生」を看板に、活動や研究成果を紹介する8枚のパネルを展示したほか、社会連携センターの「環境こだわり近江野菜講座」、環境総合センターによる「びわイチモニタリングシステム」のデモンストレーション、農場で栽培したサツマイモ”食べ比べ”イベント。



そして環境学習支援士会は、「未来のびわ湖人育成のための学習支援事業」の出前講座の活動内容を説明するパネル展示と、びわ湖に関するクイズを実施し、滋賀大学並びに環境学習支援士会をPRしました。

本年度の来場者は19日7,710名、20日10,280名、21日11,200名の計29,190名。(昨年は33,080名)

自然観察会in米原

佐瀬章男

日時 2016年11月6日(日) 10時~12時(米原公民館前と文化産業交流会館周辺)

対象 申込み 16 名が 11 名に (小 1 年 ~ 4 年) 公民館スタッフ 4 名
開催の狙い: ネイチャーゲームで樹木を楽しみ、自然を五感で体験する
開会(自己紹介) 米原、坂田、河南(醒ヶ井)小学生 11 名 3 班
今日の進め方 プログラムに基づき説明

1) 温暖化防止と樹木の役割 20 分映像で温暖化防止と主な樹木の説明
2) 屋外の自然観察学習 35 分

屋外の樹木を調べる(活動範囲誘導と主な樹木の説明)

樹木の高さの測定法 30 cm 定規で文化産業交流会館の玄関の木(シラカシ)を測る

3) ネイチャーゲーム(木の葉の玉手箱) 30 分

風が強く、A4 封筒に葉を集めて教室で貼り付け、採点(180 点満点)160 点が 2 班 120 点が 1 班

4) ふりかえり 20 分 まとめとクロージング 解答と木の解説の資料を配布 12 時 8 分終了



あなたの活動を支援する「助成団体シンポジウム」in京滋奈

11 月 19 日(土)12:45 ~ 17:00 会場ひと・まち交流館京都

橋田卓也

(1)基調講演「助成金の基礎を知る」 松原 明氏(市民活動を支える制度を作る会理事)

社会に貢献する市民活動が社会に欠くことが出来ない。NPO 法人やこれから NPO を目指す団体が、財政的自立する為に制度の改善・充実を目指すために任意団体から NPO 法人振興会へ入会を求める。市民団体が活動していくために助成金支援団体の助成金を活用することが必要不可欠である。

(2)報告 コーディネーター:阿部圭宏氏(しが NPO センター)

助成金を上手に活用して成果を上げた団体からの事例報告

奈良事例(助成金奈良県) 宇陀松山華小路実行委員会

滋賀事例(平和堂財団) 一般社団法人 KIKITO(環境系)

京都事例(三菱財団) 同志社大滋賀の縁創造実践センター

3 つの事例から助成金を活用して、活動を発展されている取組が紹介された。活動内容に創意工夫を加えて助成金を継続されていることや、別の助成金団体から申請目的や内容を変えて獲得されていた。

(3)参加者全体による意見交換会と参加された 14 の助成金支援団体から助成金の給付内容が紹介された。

(4)名刺交換会で参加 14 助成団体の中で、いくつかの団体と名刺交換するが、環境学習支援活動への助成金支援制度はなかった。シンポジウムに参加して環境学習支援活動を継続していくためには助成金支援団体を見出し、助成金を獲得し活用していくことが私たちの団体の大きな活動課題であると痛感しました。



おおつ環境フォーラム2016

原田 義子

平成 28 年 12 月 3 日、ピアザ淡海の大会議室と周辺・小会議室で開催されました。

私たちの会場は小会議室の方で「葦笛の演奏」「木工細工」などいろんな音の中での開催で、そんな中ステージ発表が 3 件あり、熱心に発表されて興味深く聞くことが出来ました。

私たちは「展示」という形での参加でした。支援士会の活動状況のパネルをパーテーションに掲げたり、会議机の上に紹介チラシ・クイズ等並べたりと少しでも多くの方々に私たちの活動を知って頂くように配慮いたしました。ところが会場の入り口に辿り着くまでに大会議室やその周辺の廊下に多くの展示や物販が有りごった返して居り、当会の会場はそこから少し奥まった場所であった為、入場者が少なかったように思います。

しかし、主催者側の配慮で「スタンプラリー」で当会場にポイントが有った為、入場者がぼつぼつと来られました。「どんな事をされているのですか?」「無料ですか?」「どんな所で活動されていますか?」等の質問を頂きましたので真摯にお答えさせて頂きました。

狭い会場でしたがそれなりに対応で来たように思いますが、欲を言えば会場の設定を同一会場にして頂けると有難がたいなと思いました。

夏原グラント交流会に参加して

奴賀義春

平成 28 年 12 月 4 日(日)草津市まちづくりセンターにて開かれた「夏原グラント交流会」に橋田理事長・原田義子さんと参加させて頂きましたので、報告させて頂きます。参加団体が多岐に亘っておりまして、当初の目的である協業できる団体の抽出を試みましたが、結論から申し上げますとそういう団体は見つけ出すことはできませんでした。目指す方向や目的が違う団体が多すぎました。何回か参加している内に適切な団体も見つかるかも知れませんが、根気よく参加し続けることが必要なのかも知れません。

参加されている団体はそれなりに意義を見いだしながら活動しておられるので、個人的には興味ある活動をやっている団体もありました。ただ我々の目的は出前講座や自然観察会などの協業ができる団体を見出せることが最大の目的ですから、そういう意味からは消化不良と言わざるを得ませんでした。それより交流会で知り合った方々を通じて、更に新しい団体へのアプローチができて、何れ協業できる団体と行き会えば大成功であると考えれば良いわけです。その第一歩と考えれば無駄ではないわけですし、それが最も大切な活動だろうと存じます。そういう思いを新たにした交流会でした。報告という内容ではありませんが、感想に過ぎないものでした。

琵琶湖博物館見学研修会

佐瀬章男

1月24日13時30分～16時 参加者は当会5名にレイカ大びわ環OB5名
当日は大雪の影響で開催が危ういところでしたが、博物館周辺の道路には積雪が無く予定通り開催しました。

減免申請や見学申し込み手続きで何回か折衝して準備しましたが、残念ながら大雪や風邪のため予定より5名ほど参加者が減って、少し寂しい開催でした。



学芸員の里口氏が地質学的観点から最初に A 展示室で古代湖の「大山田湖」から「甲賀湖」「蒲生湖」「堅田湖」と新しい湖が次々に誕生しては消滅を繰り返し、40 万年前に現在の琵琶湖が出来たと説明されました。

その後 B 展示室に移動して地形的観点から琵琶湖西岸の沈み込みで、琵琶湖が北に拡大しながら長期に生き続けている様子を概説されました。多くの質問や意見に対し丁寧に応答してもらいました。

説明終了後、博物館の他の展示室を自由見学して終了しました。夏原グラント助成金の活動で、現在使用中の PPT 資料に反映すべき点が色々あり、29 年度の出前講座に反映して進めていく事が今後の課題となりました。

草津市子ども環境会議

奴賀義春

前日の夕方 5 時頃から草津市役所 2 階の特別大会議室のブースへ設営した後、翌平成 29 年 1 月 28 日(土)午後から原田義子さんと参加してまいりました。その日の朝 9 時から草津市役所さわやか保健センターで、災害ボランティア訓練がありましたので、参加してまいりました。ボランティア活動者の受け入れ、特技を聞きながら、適切なエリアに派遣する訓練です。大いに役立ちました。午後 1 時からオープニングセレモニーが 1 階のホールで開催され、石川先生のご挨拶を皮切りに環境会議が始まりました。そこで我々は 2 階のブースへ移り、各ブースの見学と撮影に努めながら、交流も深めていきましたし、市役所の環境課の職員や小学校の職員との交流に努めました。渋川小学校・志津小学校・玉川小学校など極めて内容の濃い小学校もあれば、形だけの出展の小学校が多くあり、環境教育に関する温度差が有り過ぎるような感じました。これは環境課の職員にも指摘しておきました。やはり環境の専門家の応援を得て子どもを指導する必要があるのではないかということ、滋賀の宝であるびわ湖を本当に護る教育が少なくとも草津市では多少遅れている学校もあるのではないか、提言しておきました。



「女性が語る水辺環境と地域づくり」シンポジウム

前田雅彦

日時：2017 年 1 月 28 日(日)、場所：滋賀大学大津サテライトプラザ会議室

地域からの取り組み報告

○小林弘子氏 栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会事務局

東近江市栗見出在家町で魚のゆりかご水田の運動が始まったのは平成 19 年。

ゆりかご水田面積推移	平成 19 年	平成 24 年	平成 28 年
滋賀県	13 地域 59ha	29 地域 105ha	30 地域 127ha
栗見出在家町	20ha	21ha	31ha

生き物にも人にも優しい安心安全な米作りを目指して環境こだわり農法を実施。

自治会長がゆりかご水田協議会の長を兼任、役員も自治会役員の兼任がほとんど。したがって古い農村の、しきたりが残り、男性主体の組織で女性の参加が少なく、当初は苦労した。食への転換を図り、米粉団子、鮎ずし、エビ豆などの講習会などを実施、徐々に女性の参加を増やしていった。

○金崎いよ子氏 認定 NPO 法人びわ湖豊穰の郷理事長（会員数は個人、自治会、企業含めて約 400 人。

- ・人と自然が調和した豊かな地域をめざして 活動できる会員の拡大が課題)

目的：赤野井湾の「水質改善や豊かな生態系を取り戻す」

目標：・ゲンジボタルが乱舞する故郷の再現 ・琵琶湖とシジミに親しむ湖辺の再現

活動地域：赤野井湾流域 流域面積約 2.9 km² 流域人口約 8 万人

活動内容：・環境保全学習事業(オオバナミズキンバイ除去プロジェクト)

- ・環境情報発信事業
- ・守山市ほたるの森資料館管理運営(守山市ホテルパーク&ウオーク実行委員会)

総合討論 コメンテーター 滋賀大学環境総合研究センター客員教授 柏尾珠紀氏

- ・子供を参加させることにより、女性の参加が増える。
- ・女性がこういった活動に参加するには、夫の協力が不可欠である。
- ・食に関するイベントを開催など女性が関わりを持ちやすい雰囲気作りが、女性参加のキーポイントである。
- ・環境こだわり米は、ブランド米として販売しているが、関西地区は売れなくて、関東の東部生協が主な販売先でありもっと宣伝が必要であるとのことでした。環境活動に参加する女性の立場を感じた会合でした。

「しがこども体験学校実践交流会」

佐瀬章男

平成29年2月3日(金)13:20~16:15、県庁東館7階大会議室にて開催されました。

当会からは、原田理事と佐瀬が参加しました。開会あいさつで県教育委員会事務局生涯学習課大西課長が、最近の子どもに関する自然学習の傾向を話されました。その後活動事例として下記の2件が発表されました。

「通学合宿等地域での子どもの体験活動」の取組 「しがこども体験学校」事業実施団体の取組

発表者 長浜市虎姫公民館 河村 好子 氏

発表者 CLUB ATTRACTION 田中 洋一 氏

このあとこども体験活動アピールタイムがあり、関係機関・団体からの情報発信として5団体がアピールをしました。15分の休憩後グループ討議が行われて、下記の内容で進めました。

- ・アイスブレイクを通して交流(しりとり、自分自慢、紙きり長さ競争)
- ・グループに分かれて討議・情報交換 ・3グループ程度の発表

アンケート記入後予定より15分早く閉会となりました。

「中国湖南省洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」研修会講座

佐瀬章男

滋賀大学市川教授より紹介を受けこの講座を担当することになりました。JICA 委託の事業を推進している淡海環境保全財団より依頼を受けた上記研修会の講座を、2月10日に実施しました。天気予報で前夜から積雪になる寒波で心配しましたが、幸いなことに朝は雪もなく、朝9時より大津市の「コラボ21」にて開始され、以下の担当とプログラムで進みました。

9時~10時 滋賀大学 市川教授 「環境学習支援士履修制度」について

10時~12時 橋田理事長 滋賀大学「環境学習支援士」会の活動について



13時30分～16時30分 佐瀬副理事長 「びわ湖の昔・今・これから」出前講座の紹介

受講生は湖南省からの専門技術者集団で、当日の受講生は午前中4名、午後5名でした。

通訳が入った講座で最初は戸惑いましたが、受講生も環境関係の仕事を担当している技術者や先生で、講座は思ったよりもスムーズに進行しました。

質問事項は結構専門的な事項も多く、受講生が担当している活動や悩みも想像出来ました。

私たちが進めている「びわ湖の昔・今・これから」出前講座に対する理解を貰えたのは大きな収穫でした。

平成28年度 野生動物研修会に参加して

主催：滋賀県獣医師会

佐瀬章男

一般市民講座 「歩いて見た 滋賀の生物多様性」 2月11日(土・祝)14時～17時

琵琶湖博物館セミナー室 参加者：約50名

講演1 「人々が暮らしを育んだ奥山・里山の森と巨木たち」青木 繁先生

講演2 「びわ湖の森に息づく 命にぎわう動物たちの世界」安倍勇治先生

講演1の青木先生の話は湖西から湖北を中心に里山や奥山が最近如何に変化してきているかを、先生の歩いてきた写真を中心に話をされました。

- ・滋賀県のブナの現状は、株立ちの木と比較的若い単幹のブナに分けられる。
- ・株立ちの木の写真が多く紹介されましたが、これは近年までこの木がまきや薪炭用に利用されてきた名残、そして巨樹(栗やトチノ木など)は伐採せず、その木の実が毎年利用されてきた証しだそうです。
- ・里山の利用価値は現在の私達が考えているより多岐にわたり、例えば草刈山も沢山あったそうで、その草は火付け用や田の緑肥料として鋤きこまれていたようです。(販売ができた)
- ・興味深い話では、田の傍の雑木林は影になるので、伐採ができたそうです。
- ・湖西の山では鹿や熊や猿の食性の影響で、尾根道の草は殆ど無くなり、竹林が枯れ色々な被害が出ていてこれは県内の山の全てで言える現象。

講演2では2016年まで多賀町立博物館学芸員として勤務され、現在多賀町教育委員会生涯学習課に所属している安倍勇治先生が鈴鹿山脈東部を中心に活動されている様子を紹介されました。

化石の調査から日本列島には3万年前までは大型の哺乳動物が沢山生息していたが、気候や植物(えさ)の変化で絶滅したり、小型化した。外来種：アライグマ、ハクビシン、ハナグマ、等が人家で生息している例
鹿の化石から現在の鹿との比較をしたり、洞窟の中の泥からの化石を調査したり、鈴鹿山脈東部に出没したツキノワグマの追跡調査、紀伊半島のツキノワグマは小型化してきたので、鈴鹿でも目撃情報のあるコグマは或いは小型化したツキノワグマかも知れない。持ち込まれた動物の世話(テン、ハクビシン)面白い話では猿も洞窟で生活(越冬で寒さが厳しい地域)する証拠が数地点で確認され大昔の人間の生活との関係が紹介されました。

夏原グラント3年目のヒアリング

佐瀬章男

平成29年2月18日(土)10時～10時30分 草津市まちづくりセンター 304会議室

1、当会より2年目の活動状況と3年目の計画を説明

28年度は18校に21回の講座を実施、(前年の13校16回)新たに栗東市、近江八幡市に実績が出来た。

「身近な川の学習」は新たな学習地点を探したが、金勝公民館以上の会場が見つからなかった
WSの内容を新しく見直して実施することで、児童・教師ともに講評であった。

2、予算の実績と3年目の計画に関して

28年度は1クラス1名の講師体制と実施学校数の増加で予算をオーバーし、会の予算から補填した。

3、質疑応答

3年目の助成金が終了後はどう進めるのか

- ・講師の交通費を何とか確保し事業は継続。多クラスの学校の対応の工夫、等で学校にも理解を求めていく
継続してこの事業を進めるには、会としての謝金や交通費のルール作りが必要ではないか

学校にも予算的な状況を活かして協力を求める等の工が出来るのでは ・ 継続して検討していく
 29年度の増額申請は全体の予算枠もあり前年並みで覚悟してほしい ・ 予算決定額で何とか活動していく
 予算確保の工夫（例1：PTAの授業として親子参加で実施させてもらうとか
 例2：金勝川の活動は家族で500円の参加費を取るとか工夫しては）

4、今後の展開に関して

- ・ 実施学校数を増やしていくばかりでは、運営が苦しくなるので内容を考えて細く長く継続も必要では
- ・ 学校だけでなくコミセン等にも働きかけて、少しでも謝金等の確保も検討してはどうか
- ・ 29年度は次年度以降の予算的な運営も考えて一部試行しながら実施して行ってほしい

温暖化防止部会の活動内容 (2016年10月～2017年2月)

毎月の定例会では、地球温暖化に関連したテーマを取り上げて、各担当者がそのテーマについての話題提供を行い、会員との自由闊達な議論を行い、問題がどこに有るのか、解決策はどうすれば良いのかの議論を行いました。温暖化の進展は、今から緩和策を行っても急には止まりません。進展の程度が緩くなるくらいで、温暖化は進みます。従って、適応策が必要ということで、5次の報告書で取り上げられています。温暖化の緩和と適応策の両方-両輪の対策が必要です。

2016年10月から2017年2月までに行われましたそれぞれの話題提供を緩和策、適応策に分けてみます。



文責 橋本繁

○「人工光合成」とはなにか（10月）

夢の新エネルギーとして期待されている光合成による水素生成について、原理、国内外での競争、現状の課題、将来展望を含めて話題提供が行われました。日本はこの領域では一歩先を行っているので進展を正しく見ておく必要があるとの認識を共有しました。

○「CCS」について（1月）

気温上昇を2度以内に抑えるには、今世紀末に、二酸化炭素の排出をマイナスにする必要があります。その一つの手段としてCCSが有力視されています。その現状と将来の課題について話題提供が行われました。この手段には問題が多いとの認識を共有しました。

○「セルロースナノファイバー」について（2月）

植物由来の持続型資源を展開した新素材セルロースナノファイバーの本質、応用展開、課題、将来の夢についての話題提供が行われました。併せて先端技術だけに、特許動向も話題の材料としました。人工光合成と同じような認識を持つ事を確認しました。

○「温暖化関連災害から身を守る」（12月）

地球温暖化への適応策としては既に、人体に対して熱中症対策についての話題提供がありましたが、今回は、地球温暖化により、異常な雨の降り方による自然災害の多発について、災害の種類やその備えについて話題提供が行われわが身を守る事の大切さを改めて認識しました。

滋賀・大阪環境研究所連携シンポジウムに参加して

橋田卓也

「暮らしを支える森林の今～森林の多面的機能を維持するために～」

2月20日(月)に大阪国民會館にて13時から開催されました。毎年この時期に開催されているもので滋賀・大阪

の環境研究所が連携の第3回シンポジウムです。会場には一杯(150名)の参加者が集まっていました。

基調講演は前迫ゆり(大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授)の「日本の多様な森林とその危機～人と地球が森を育む～」で、生物多様性と生態系サービスの概論から、日本は温暖多雨な気候が森林を育ててきた。現在の森の変化はシカと外来種で、森林が抱える脅威と森林の未来は地球と人が育てて森林を未来につなげることが、人間の豊かな暮らしと生態系の健全性につながると話された。

基調講演後、琵琶湖環境科学研究センターの「多面的機能を維持するための伐採跡地管理を考える」大阪府立環境農林水産総合研究所の「大阪の森林に棲むシカと植生被害の現状」大阪府の事業紹介の「大阪府における森林環境税を活用した事業の実施について」3つのテーマの発表がありました。現在の環境下では森林の天然更新は困難であり、森林の多面的機能を持続的に継続していくには苗木の植栽、獣害防除(シカ対策)下刈等へのコストをかけなければ森林を次の世代に残していくことが出来ない。環境問題は身近な暮らしの中にあり、今取り組まれている子どもたちへの「やまのこ」学習の大切さ実感しました。

夏原グラント出前講座(28年10月～29年2月) 28年度は合計18校に21回実施

学校名	日時	組と児童数	担当者	(乗船日)
大津市志賀小	10/7 5-6時限	4組 144名	奴賀・原田 吉川・佐瀬	29/1/16-1/19
彦根市旭森小	10/12 3-4時限	5組 147名	三田村・前田 橋田・吉川・佐瀬	5/23・5/25
大津市大石小	11/17 5-6時限	2組 61名	前田・橋本	11/30-12/1
大津市逢坂小	3学期 1/31 3-4時限	2組 59名	佐瀬(B組) 橋本(A組)	12/2・3
大津市仰木の里小	講座 :1/19	1組 28名	橋田(講座)	29/1/30
仰木里小	WS:2/2	1組 28名	佐瀬(WS)	29/1/30

平成29年度総会のお知らせ

日時：平成29年4月16日(日)11時～16時30分 総会と研究発表会 17時～懇親会(会場付近)

会場：滋賀大学大津サテライトプラザ(JR大津駅前 日生ビル4階)

内容等は別途総会案内でお知らせします。多くの会員の参加をお待ちします。

編集後記

寒い冬でしたが、今年の桜開花予想が出始めました。最新の予想では京都が3月31日、大阪は4月1日、滋賀南部はそれ以降で4月3日頃となっていますが、さてどうなるでしょうか。

当会も結成10年を迎え機関誌を記念号としてカラー版で編集しましたが、やはり文字の多い文面になってしまい、読者の皆様には決して楽しいカラー版とはなりません。10月から3月は色々行事も多く、当会が参加した全てを記載出来なかったのは残念ですが、(例として夏原グラント出前講座)大よその活動は報告できたのでは、と思っています。文面の都合で原稿提出会員にはお断りなく修正やカットをした事をお詫びします。

4月からの新年度、夏原グラント助成金出前講座も最終の3年目を迎えますが、この2年間の活動の成果を生かして仕上げの年に相応しい形に出来たら、依頼先の先生や受講児童にお返しができるのではないのでしょうか。会員各位の積極的参加をお願いします。